

小松基地・空港対策特別委員会

1. 日 時 平成 28 年 12 月 14 日 (水)
午後 1 時 30 分 開会 午後 2 時 30 分 閉会
2. 場 所 第 2 委員会室
3. 出席委員 灰田昌典委員長、川崎順次副委員長、新田寛之委員、片山瞬次郎委員、
宮西健吉委員、宮川吉男委員、浅野清利委員
4. 欠席委員 なし

5. 委員会の議題

調査事項

- ・ 在日米軍再編に係る訓練移転について

報告事項

【飛行場課】

- ・ 平成 28 年度上半期の緊急発進実施状況について
- ・ 小松基地幹部の異動について

【観光交流課】

- ・ 航空プラザ 2 階展示場リニューアルについて

【国際都市推進課】

- ・ 小松空港国際線の利用状況等について

6. 委員長報告の要旨

先の定例会で、継続調査の議決をいただきました「飛行の安全」及び「飛行場周辺まちづくり」に関する調査について、閉会中も調査を続けてまいりましたので、本委員会での意見及び議論について、ご報告申し上げます。

■在日米軍再編に係る訓練移転について

現時点では、小松基地における訓練計画はないとのことであります。

国内の訓練移転の状況ですが、今年度 2 回目となる訓練移転が千歳基地で行われました。岩国基地の第 1 2 海兵航空群の (AV-8B) ハリアー戦闘機が 4 機、人員 90 名程度が、12 月 5 日から 16 日まで行われました。

グアムなどへの訓練移転は、今年度 4 回行われており、今までで通算すると、31 回になります。

今後とも、訓練実施の際には、市民の安全・安心を図るため、これまで以上に安全対策、騒音対策を徹底し、飛行の安全や協定の順守を求めるものであります。

訓練の実施については、小松市民にとって関心の高い事であることから、今後とも、速やかな情報提供に努めるよう求めました。

■平成28年度上半期の緊急発進実施状況について

本年10月に統合幕僚監部から発表された資料によりますと、平成28年度上半期の緊急発進回数は594回であり、前年度の同期と比べ251回増加したとのことであります。過去2番目に多かった平成26年度の上半期の回数である533回と比べても61回多い状況となっております。

国・地域ごとの緊急発進回数について、中国機は407回で約69%となっており公表を開始した平成13年度以降で最多とのことでした。

航空方面隊等別緊急発進回数は、南西航空混成団が382回の緊急発進と跳びぬけて多く、また、全ての航空方面隊の緊急発進回数が増加している状況であるとの報告を受けました。

■航空プラザ2階展示場リニューアルについて

展示情報等の老朽化が見られることから、日本海側唯一の航空博物館に相応しく、航空プラザの2階展示場をリニューアルするものであります。

絵本形式のパネルや40型液晶モニターなどで航空の歴史などが学べるものであります。

今後は、子どもから大人、愛好家まで楽しめることをコンセプトにしており、多言語解説のQRコードを活用し、外国人の受け入れ環境の向上を目指すとのことであります。

展示場がリニューアルされたことにより、より多くの来館者が見込まれることから、近隣の国有地を借りて対応しているとのことでありますが、今の駐車台数(キャパ)で足りるのかどうかを含め、駐車場の容量及び整備の必要性について検証していくよう求めました。

また、小松駅南ブロック複合施設の「子どもと市民の学びのゾーン」とのすみ分けにより、利用者の選択肢が増えることは大変良いことでありますので、関係部所と調整していくよう求める意見も出されました。

■小松空港国際線の利用状況等について

ソウル便、上海便、台北便、チャーター便の本年度10月末の利用状況及び、国際線の利用促進について、航空会社や小松空港協議会等と連携した取り組みが報告されました。

ソウル、上海、台北の国際3路線においては、外国人利用促進策として、現地の旅行会社を招聘し、旅行商品造成等の支援を行うとともに、日本人利用促進策として、県内及び近隣県からの広域的な集客促進のため、旅行会社に対し旅行商品企画販売等の働きかけを行っているとのことであります。

新規路線の開拓については、タイ、香港などの東南アジアをターゲットに、チャーター便の運航支援、現地での認知度向上に向けたPRを実施しているとのことであります。

国は、2020年に訪日外国人旅行者数4,000万人を目指しており、本市においても「国際都市こまつ共創プラン」を策定し、現在約18万人の国際線利用者数を、2020年には約25万人に拡大していく目標を掲げております。インバウンド観光について、関係機関と連携協力し、積極的に取り組むよう求めました。

また、台北便については、10月のデーリー運航再開後、利用者が順調に増えてきております。今後も増加が期待されることから、小松空港の更なる活性化、観光誘客の促進の最大のチャンスととらえ、台湾彰化市と友好交流都市協定を結び、台中、台南など新規路線開拓に向けて、更なる交流促進を求める意見も出されました。